

「TOKYO MARU-VISION」 天気予報のご紹介

まもなく年の瀬を迎え、年末年始には例年どおり多くの人たちが鉄道などを利用して故郷へ帰省することでしょう。それら多くの人たちが行き来する東京駅。その東京駅の玄関口にある、デジタルサイネージメディア「TOKYO MARU-VISION」で、今月から天気予報が見られるようになりました。

「TOKYO MARU-VISION」は、東京駅の丸の内南北ドーム内にあり、ドームの形状に沿って中心を取り囲むように各ドームに4ヶ所、計8ヶ所設置されている、55インチ縦×9面の大型マルチディスプレイ



レイです。天気予報は新しくなった東京駅に相応しいデザインで、国内主要都市や世界の天気予報をご覧いただけます。また、表示コンテンツは日本語版のみではなく、外国人観光客の方にも伝わるよう英語版でも表示します。気象情報は日本気象協会から提供してい

ます。東京駅をご利用の際は、「TOKYO MARU-VISION」天気予報を是非ご覧ください。

日本気象協会
小田 美穂

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

特別顧問 : 丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルデング顧問)、丸山 博(元国土交通審議官)、本保 芳明(初代観光庁長官)
理事長 : 大島慎子(筑波学院大学学長)
副理事長 : 岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長 : 杉行夫(理事)、事務局次長: 堤るり(理事)
支部長 : 片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)

【団体会員】(2013年11月27日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アトルックス、(株)アルビオン、荒井建設(株)、アデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成有楽不動産(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカツリレーションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、羽田旅客サービス(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルモロリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんフィオーレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電 話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：大島慎子(JN協会理事長)
編集長：加納 隆(JN協会副理事長)
発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記 偽装食品と世界無形文化遺産、そして「おもてなし」

一流ホテルやレストラン、さらには日本酒など、食生活に関係する分野で表示と違う材料が使われたりする「偽装」が、日本各地で摘発されている。和食と言えば、健康的で美味しいと世界的に認知され、この12月にはユネスコの無形文化遺産に認定・登録される可能性が高い、と言われている。そこへ、この偽装騒動が起きた。はたして、ユネスコはこれをどう見て、無形文化遺産登録問題を、どう捌くのか。気になるところである。

先の東京オリンピック誘致の際に、プレゼンターが使った「おもてなし」という言葉が、国内のみならず、世界中を駆け巡った。この偽装食品で「おもてなし」とは、これいかに？それこそ、世界が目指すポイントではないか。

「日本人はウソをつかない、国民は親切であり、街は安全、交通機関は定刻離発着」という定評があり、それが観光立国を進める日本の謳い文句であり、外国からも認められるメリットだったはず。それが「ウソ」で固めたような“食品偽装”発覚とあっては、観光立国が泣く。残念でたまらない出来事である。(加納)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW
観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第92号 発行日2013年11月27日

Contents

JN協会2014年の事業計画案	1
特別顧問の寄稿(東京オリンピックなど)	2
富士山(静岡県・加藤局長)、街道観光1	3
アメリカこぼれ話(カボネ)、美女ありき	4
東北へ行こう！COLUMN(捕虜の気持)	5
城下町と観光(鳥取城)、NEWSPOT	6
「観光政策の理論と実践」、観光立国セミナー	7
お天気の話、編集後記	8

「城と街道」クローズアップへ

2014年からJN協会が取り組みへ

NPO法人「JAPAN NOW観光情報協会」(大島慎子理事長)は、平成26年(2014年)の事業計画を近々策定する。

会員の増強と財政基盤の改善に取り組むとともに名古屋をはじめ全国各地(支部所在地)でのシンポジウム、東京での観光立国セミナー、見学会などを盛り込む予定。

隔月発行しているJN紙では、現在掲載中の「城下町と観光」(筆者・長宗我部友親参与)を模様替えて、「城と街道」にまつわる記事を随時まとめていく。また「街道観光」は、副理事長・中部支部長の須田寛・JR東海相談役が強く推進しており単行本も発行済み。このJN紙でも連載を始めた。

観光立国をさらに推進していくには、古くから密接な関係がある「城」と「街道」を、いまの視点で結びつけて取り上げていくことが、適切だとの判断からである。城や城址を有する各地の自治体と連携をとりシンポジウムを開催する、できれば映像化も図っていく。将来の夢としては、東京オリンピック開催とからめて、その映像、記事を海外にも紹介し、海外観光客誘致に役立てればと思う。

森ビルジオラマ見学会

日時：2014年1月21日(火)13時～15時

場所：六本木ヒルズ森ビル森タワー42階

六本木ヒルズ10周年を記念して作った東京の都市模型。東京の街並みを1000分の1サイズに再現した。六本木ヒルズから東京タワー、ビル群等東京の街を精巧に再現している。

外国人観光客誘致は東京集中でなく

1～10月で、年間過去最高を抜く

2020年の東京オリンピック開催に合わせて、外国人観光客誘致の機運が盛り上がっている。1～10月で866万人と、過去最高だった大震災前の2010年の861万人を超え、政府が目指す今年の1000万人は、実現の可能性が高くなっている。さらに2000万人、3000万人への道筋が描けそうな状況。

ただ、それには解決すべき課題が山積していることも否定できまい。一つは、環境整備が東京一極集中になる恐れがあること。となると、外国人観光客も東京周辺に集まり、地方との格差がますます開くことになりかねない。

オリンピック関連の施設、交通網の整備・充実が東京集中になるのは、当面やむを得ないにしても、政府は意識的に地方のインフラ整備や受け入れ態勢の充実を急ぐ必要がある。

いくつか提案したい。ソフト面でいえば、海外ことにアジアからの修学旅行生を、京都・奈良など古き良き日本の面影が残る場所を中心に格安料金で招くことが、考えられよう。地方都市に免税店を展開することも、ありえる。

懸案となっているカジノのような誘致効果が高いスポットを、東京・お台場ではなく、九州、東北地方に作ることも検討されてよい。外国人は、日本の城に興味を示すという。城と街道をセットにし、地方食を組み合わせたルートを開発することも、意義があるだろう。衆知を集めて、インバウンド増加を目指したいものである。(文責・加納)

日本3名瀑の1つ・袋田の滝の紅葉

富士山初冠雪。例年より遅れて(2013年10月19日)

J N協会特別顧問の各氏に、ご登場願った。

東京オリンピック 再び！

J N協会特別顧問 丹羽 晟
(元海上保安庁長官、J N協会初代理事長)



昭和39年（1964年）10月10日、オリンピック東京大会が開幕した。私はその前の年に東京から大阪に転勤していて京都に住んでいた。オリンピックに向けて日本は活気づいており、私は転勤直後の7月に、日本で初めての本格的な高速道路である名神高速尼崎―栗東間の開通式に参加して大変感激したので、次の転勤の時には、オリンピック開幕直前の10月1日に開業する東海道新幹線に乗って帰京し、東京オリンピックを見たいものだと思っていた。

そうなれば初物づくしとなる。残念ながら世の中はそう甘くなく、次の転勤発令は希望より1カ月早い9月1日となり、在来の東海道本線で帰京することになってしまった。でも、オリンピックが直接見れるなら「まあ、いいか」と思った。ところが、こっちもそうならず、観戦切符が入手困難で、やっと手に入れた閉幕式の入場券も仕事の都合で当時3才の長男にゆずり、テレビで見るはめになる始末であった。

10月10日、東京オリンピック開会式の日、前日までの天気予報では雨、天は無情なり、残念、無念と思いながら朝雨戸を開けると、なんと快晴、「やったー」と思った。テレビで見ると、まさに雲一つ無い素晴らしい日本の秋の青空を背景に、昭和天皇がおごそかに開会宣言をされた。聖火がともされ、空では航空自衛隊のジェット飛行隊「ブルー・インパルス」が色とりどりの五輪マークを描いた。

今、私は81歳。次の東京オリンピックの時は米寿となる。80才までの人生設計しか無かった私に、2度目の東京オリンピックを、59歳の長男と一緒に見るという目標ができた。

オリンピックと観光

東京一人勝ちを懸念、イギリスに学ぼう！

J N協会特別顧問 本保芳明（初代観光庁長官）



先日、UNWTOの国際会議に出席し、ビジット・ブリテンのロドリゲス会長のロンドン・オリンピックと観光に関する講演を聞いた。イギリスが、競技大会開催前・中・後の段階に応じた明確な戦略を構築し、当然ながら、大会前を重視して、インバウンド観光プロモーションを展開していたことが良く分かった。

プロモーションのキーは、大会関連及び周辺の取材のために訪れる膨大な数のジャーナリストを活用した、イギリス全土の効果的なカバーにあった。このことによってロンドンの一人勝ちを避ける努力もしたとのことであった。

2020年の東京オリンピックについても、既に東京の一人勝ちを懸念する声が出ている。日本全体の観光活性化、国一丸となったオリンピックへの取り組みのためにも、東京だけでなく国全体を舞台とする2020年に向けた観光振興策の早急な策定が必要とされるところであろう。

ロドリゲス会長が講演で最も強調していたのは、連携・パートナーシップであった。スポンサー企業を始めとするオリンピック関連企業等は、オリンピックに関連した活発な情報発信活動を展開する。その巨大な情報発信パワーを観光に活用しない手はない。だからこそ、ロドリゲス会長は、「オリンピックで、大事なものは、パートナーシップ、そしてパートナーシップだ！」というのだ。2020年は、我が国にとっても関係者のインバウンド・プロモーションの力を結集する絶好の機会だ。

観光に関しては、オリンピックの戦いは既に始まっている。

× × ×

新しい観光の対象としての空港

J N協会特別顧問 丸山 博（元国土交通審議官、前フィンランド大使）



私が現在勤務している会社は、羽田空港（東京国際空港）の西の端、旧整備場地区にあり、モノレールの駅では、整備場が最寄り駅ということになる。私の執務室は6階なので一日中、羽田空港で繰り広げられる航空機の離発着を目にすることができる。乗り物が好きで運輸省に入ったという私の経歴のせいかもしれないが、航空機の離発着はそれ自体がダイナミックな見ものであり、見飽きることがない。空港自体は、航空機を利用する人々が一時的に留る場所で、伝統的な観光施設ではない。JAPAN NOWの91号で“新しい観光「街道観光」に注力”と題する須田副理事長の講演の要旨を拝読させていただいて、「みち」が観光の対象となるなら、空港も立派な観光対象になるのではないかと思った。

ほとんどの空港には、展望施設があるが、航空機の離発着の様子を見て楽しむだけのために訪れている人も多い。中部国際空港は展望施設とあわせて、入浴施設も設けている。ゆっくりと風呂につかりながら空港で展開される景色を楽しんでもらおうというしかけである。はとバスは、航空機の離発着を間近で見せることを売りにしたツアーを組んでいる。

空港のレストランというと搭乗前にあわだしく食事をするところという印象が強いが、空港の景色（特に夜景）を楽しみながら、ゆったり食事を楽しむというコンセプトのレストランもある。

空港でのショッピングといえば、ショッピング自体を楽しむというよりは、おみやげや空弁（そらべん）を買うところというイメージが強いが、最近では、駅中のショッピングモールと同じぐらい充実してるものもある。

2020年オリンピックの東京開催が決定し、オリンピックの競技会場が多数置かれる臨海部へのアクセスに優れる羽田空港は、海外からの来客のゲートウェイ空港としての期待が高い。国土交通省の交通政策審議会航空政策部会では、首都圏空港の機能の強化についての議論が開始された。

オリンピック開催の機会を捕えて、人々のつどう憩の場、交流の場としての、また、新しい観光施設としての羽田空港が注目を浴びることを願っている。

NPOから提案します

観光政策の理論と実践

J N協会理事 寺前 秀一（観光学博士）



10月まで4年間加賀市長を務め、観光政策を論じていた立場から観光政策を実践する立場に立ってきました。加賀市は他地域と比較して、温泉地として特徴があるのですが、意外なことに域内総生産は製造業が五割を超えています。ただし、製造業の太宗を占める自動車部品工業、食品製造業、漆器製造業いずれもお湯の恵みから発展してきました。温泉客目当てに、温泉まんじゅうや漆器の土産品が製造され、漆器製造技術が自転車車輪製造、自転車製造、自動車部品製造へと発展してきたからです。

温泉旅館団体は市長に対してより多くの入湯税を温泉宣伝費に充当することを強く求めますが、入湯税の趣旨に反する点はともかく、市民の大半は直接温泉旅館とは無関係ですから、反発もあります。従って、加賀市の地域宣伝は、教育委員会予算等として、山中節や古九谷、坂網嶋の宣伝PRを行うことで実質観光宣伝を行うのですが、意識の差は埋めきれません。

今年の観光フィールド大学加賀市丸ごとキャンパスには、専門を異にする5人の東京大学の女子学生が参加しました。彼女たちの印象を正直にレポートしてもらいまし

観光立国セミナー

第93回（10月8日）海事センター

最近の我が国航空事情とその将来

戸崎 肇氏（早大アジア研究機構教授）

日本航空が現在使用しているボーイングB777の後継機として最新鋭のエアバスA350を購入すると記者発表したことを端緒に、日本の航空業界の現状を具体的に解説された。特に、羽田空港の国際線発着枠の配分が全日空に有利に展開したことへの影響等を分析していただいた。一方、2012年はLCC（格安航空会社）元年といわれたが、営業成績からいえば、軒並み赤字であることから、日本の航空業界の課題と国際競争力について独自の分析を展開された。

第94回（11月8日）海事センター

世界30数ヵ国を歩いて～自分自身をしっかりと！

川内 有緒さん（元ユネスコ勤務、フリージャーナリスト）

アメリカに7年、フランスに7年住み、その間に世界約30ヵ国を歩いた川内さん。まず大学を出てアメリカに留学、就職した彼女は、はじめアメリカナイズされたという、その後、ユネスコ事務所で働いて両国の違いを知った。その間にバングラディッシュで、パウルと呼ばれる吟遊詩人を求めて歩く「パウルを探して」という本も書いている。著書多数。

多くの若人がパリを目指す、その生態を「パリでメシを食う」なる本で紹介した。単なるあこがれではダメで、「どこに行くにしても、結局は『自分自身の人生』であることを自覚して、進んで欲しい」と語った。

セミナー予定

・95回 12月13日（金）正午 海事センター

講師 千葉三樹氏「私の人生における『体力』と『気力』」

・96回 2014年1月17日（金）正午 海事センター

講師 田口武雄氏「演題未定」

JN協会主催の観光立国セミナーのこれまでの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存してあります。

たが、域内交通サービスの貧しさをはじめ、加賀温泉駅及びその周辺、加賀山中温泉ゆげ街道等に対する手厳しい指摘が散見されました。加賀市民は、このレポートを読むと反発するかもしれませんが、4年前の私の印象と同じであることに気がつき、自分自身がミイラ取りになっていたことに気がつかされました。加賀市のトップセールスマンとして、地域の魅力を発信しようとしているうちに、よそ者の視点をいつしか失ってしまっていたのでしょう。それでも、子供のころの故郷での生活時間が10年程度の私でしたから、周辺の他の首長よりはミイラになっている割合は少なかったのですが、よそ者の視点を失った首長は、観光宣伝ビジネス業界の餌食になってしまいます。褒め殺しにあい、無駄な観光宣伝予算を使ってしまうのです。東京に出てきて、全国各地の自治体観光宣伝を目にするたびにそのことを感じる毎日です。



紅葉に彩られるこうろぎ橋(山中温泉)

☆ 江戸城復元プロジェクト前へ

各地の話題

J N協会元理事の小竹直隆氏が取り組んでいる江戸城天守閣の再建計画が、一歩踏み出した。NPO法人「江戸城天守を再建する会」（小竹理事長）は、10月末に記者会見し、東京オリンピックが開催される2020年に合わせ、木造5層（高さ約90m、19階建てのビルに相当）の天守閣を造るという計画を発表した。

江戸城の天守閣は、1657年火災で焼失したままだが、残存する石垣を使い当時の姿そのままに復元するという。ただ、課題も多い。予想される工費が350億円といわれ、その調達がうまくいくか、建設場所が皇居のなかの特別史跡指定地にある。また、この構想に反対する勢力もあり、実現までのハードルは高そう。

☆ 長宗我部 J N協会参与が週刊朝日に

「戦国武将『末裔』座談会」と題する記事が、11月22日号の週刊朝日に掲載されている。徳川恒孝、武田邦信、真田徹各氏と長宗我部友親の4人で、座談会は11月6日に朝日新聞社の読者ホールで開かれた。歴女（歴史好きの女性）代表格と言われるフリーアナウンサー渡辺真理が司会を務めた。11月6日の「戦国ビッグ4座談会」には、定員200名弱のところ1000人を超える応募が殺到、「歴史ブーム」の根強さをうかがわせた。ちなみに、長宗我部氏は、土佐（高知県）から四国全土を席卷した長宗我部元親の末弟・親房の子孫で、17代目の当主に当たる。このJ N紙でも、「城下町と観光」を連載している。

☆ 「奥の細道」が名勝指定に

芭蕉が陸奥・北陸路を歩き、残した俳句を中心に記したのが「奥の細道」。文化審議会は、このうち保存・保全ができていく埼玉県草加市の旧街道街並み、象潟と汐越など13か所を、名勝に指定し保全しよう文部科学相に答申。地元の保全作業が進めば、さらに追加指定を検討しており、地元の整備作業の進展が望まれる。これにより奥の細道を歩くウオーキング観光が盛り上がるのが期待される。

石垣や濠を残し風情豊かな山城 秀吉の兵糧攻め受け経家が自決

J N協会参与 長宗我部友親

鳥取城は、戦国時代のさ中、1500年代の中ごろ、天文年間に築城されたといわれる。かつての因幡国邑美群であった鳥取県鳥取市にある山城である。

現在は、天守閣など構造物はほとんど残っていないが、石垣や濠はそのままあり、中世郭の風情をとどめている。現在は天守台、復元された城門などがあり、国の史跡に指定されている。



鳥取城は、J R 山陰本線鳥取駅前から、若桜街道をまっすぐ行くと、正面に城のある久松山が現れてくる。城は、その久松山の自然の地形を利用して、因幡国の守護であった山名誠通が築城したと、伝えられる。

戦国時代には悲しい物語を、鳥取城は残している。中国地方に勢力を持っていた毛利氏と、中国攻めを計画した織田氏の二つの巨大勢力の間に位置していたことが、その悲劇の大きな要因となった。三木城や備中高松城と同じような運命に見舞われたのである。

当時城主であった山名豊国は、1580年織田信長方である羽柴秀吉に攻められ、3か月の籠城の末、秀吉に降伏した。しかし、すぐに西の毛利氏に攻め込まれて、再度降伏。その後何度か戦いがあり、1581年(天正9年)毛利氏の重臣であった吉川経家が城主に入った。

そこで、羽柴秀吉が二度目の鳥取城攻めを敢行する。これが熾烈であった。三木城攻めにも使った秀吉得意の兵糧攻めである。鳥取城に籠城していた女子供を含み、兵糧がつき、餓死者が続出し、城中は凄惨な様相を呈した。そこで、城主の吉川経家は、自決と引き換えに秀吉との和議を結んだ。「呪われた鳥取城」といわれたのはこの時のことである。鳥取城の正面入り口付近には、自らを犠牲にして城兵らを救った吉川経家の銅像が建てられている。

吉川経家の代わりに、秀吉の家臣・宮部継潤が入り、鳥取城は織田勢の山陰攻略の拠点と位置付けられた。

関ヶ原の戦い後は池田長吉が入って、鳥取城は近世城郭に改修された。その後、池田光政が因幡伯耆から325千石で入って、鳥取城は大規模城郭に強化され、さらに、岡山藩の池田光仲が鳥取城主となって、この池田氏が江戸時代を通して12代続く。

城下の新品冶(しんほんじ)町にある景福寺には、大坂の陣で活躍した後藤又兵衛基元次と荒木又衛門の墓がある。景福寺は鳥取藩の家老であった荒尾家の菩提寺で、1633年(寛永10年)に光仲が岡山から鳥取に移封されたときに、この地に移したものである。



膨大な量の被災物を常設展示＝気仙沼市リアス・アーク美術館

常設展示中だ。同市と南三陸町の広域行政組合が管理運営する同館は震災前から三陸リアス海岸の文化・民俗資料と美術作品を集め地域住民や美術ファン、観光客らに親しまれてきた。

地震、津波、原発事故に襲われ「人生を根本から崩されてしまうような重大な被災」(同館解説)を撮影した写真約3万点、収集した被災物約250点、さらに膨大な調査記録・資料などを保存し、地域の重要な歴史、文化的記録として展示する。内外で進める災害対策の具体的な資料提供にも役立てる。遺構シンボルとして原爆ドーム(広島市)などの例もあり、意識の風化を何とか食い止めようとの切実な願いを込めて3・11大災害を後世に伝える。

(文・写真 林 莊祐)



東京 霞が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

富士山の世界遺産登録で観光客増える トイレの改善などに努力

静岡県文化・観光部理事兼観光・空港静岡振興局長
加藤弘昭(かとう・ひろあき)氏



静岡県沼津市出身。1978年4月静岡県教育委員会・東部教育事務所入所、静岡県立吉原工業高校などを経て、96年4月長野冬季オリンピック組織委員会出向・広報二課長。2008年静岡県観光局観光振興室長、11年4月観光局長、12年4月観光・空港振興局長、13年4月現職。59歳。

「富士山が世界文化遺産に6月26日に正式に決まりました。川勝平太静岡県知事は7月9日に行われた日本記者クラブでの会見でも喜んでいました。加藤さんはどのように感じましたか？」

私だけではなく静岡、山梨県にとっても富士山は地域の誇りと思っており、喜んでいきます。観光という言葉は国の光を見る、ということから来ており富士山は国の光そのものです。こうした所にいられるだけでも嬉しいです。自然遺産でなく文化遺産として登録されているので普遍的な価値が認められたので、芸術の源泉ということでもあり、守り育てていきます。観光振興ということと文化遺産の保存との両立で、例えばごみなど難しい問題もあります。私としては両方が両立するようにしていきたいです。

「富士山の文化遺産の登録で静岡県の観光客はどの程度増えるのでしょうか？」

静岡県の宿泊と日帰り客の合計は12年度は1億3760万人でした。新しく高速道路の新東名が開通した事もあり増えています。富士山の登録で13年度は富士地域だけでも3割以上増えるの見込んでいます。しかし、世界遺産に決まって最初の年は増えますが、だんだん減ってゆきます。そのために他の地域の伊豆半島や浜名湖など組み合わせて売り出していきます。全県でこうしたシステムの地域を組み合わせしていきます。観光は6次産業といわれており、活性化するとたくさんの雇用が増えて県民の人が喜びます。

「世界遺産登録で登山客が増えることで弊害を指摘する渡辺豊博・都留文科大教授のような人もいます。富士山が壊れる、とまで言っています。」

渡辺さんは静岡県庁にいた人で私もよく知っています。指摘はまったくその通りだと思います。そこでトイレの問題など解決するようにしてます。頂上では込むので5合目で済ませるとか、携帯のトイレを持ってくださいなどお願いしてます。遭難が一番心配で道を間違えないようにカンバンを設置したり、緊急の救援隊の充実をしています。弾丸登山をしないように警告をしています。

「ニューツーリズムという観光の新しい姿について各方面に提言しています。具体的にどのようなものでしょうか？」

今までは団体で大きな旅館に泊まって、温泉に入り宴会をして帰っていくというものでした。今は個人客

や女子会など旅の目的が違ってきています。自車で回ったり、スキューバダイビングをしたり、やりたい事がいろいろあります。目的指向型にシフトしてきています。伊豆半島をジオパーク観光と活用してゆく事を考えています。15年には世界ジオパーク認定を申請するつもりです。

聞き手 経済ジャーナリスト阿部 和義(J N協会理事)

「街道観光」のすすめ ① (街道観光とは)

J N協会副理事長 須田 寛(J R東海相談役)

「街道観光」とは人間の交流手段であり又交流の場でもある「街道(みち)」を訪れ、(歩き)交流の原点にふれると共に沿道の景観、まちなみや街道周辺に形成された文化にふれることによって人的交流をはかる「観光」のことをいう。

以上が街道観光の定義である。要するに様々な観光対象を「街道(道)」という視点にたって見つめ直そうというテーマ別の観光で「ものづくり」の視点から対象を見つめ直そうとする産業観光と対をなすものといえよう。「街道観光」は大別すると次のような種類にわかれる。

1. 一般型街道観光
古来行なわれて来たように街道を通行する(徒歩が中心だが自転車・自動車でも通行することも含む)観光である。即ち「道の〇〇」と「道からの〇〇」といわれるように街道の視点にたって沿道の風物を味わいかつ学ぶものである。
(例)日光街道の松並木、東海道からみた富士山、中山道のまちなみ、街道からの風光を見る風景街道等。
2. ストーリー型街道観光
同名の道があるわけではないが一定のストーリー(歴史、物語、人の伝説)に因んだ事蹟をたずねるもので街道(歩き)をストーリーにみたと、人物や、史跡を辿ろうとするものである。
(例)「利家出世街道」～前田利家の出生地(名古屋荒子)から加賀金沢の大名になるまでの利家の伝記ゆかりの場所を年代順に訪れるもの。
「関西歴史街道」日本の歴史の舞台となった関西地方の史跡等を年代順に辿るもの。伊勢―大和―京都―大阪―神戸等。
「メルヘンチック街道」ドイツにある日本人にも人気の道でグリム童話の物語に出てくるゆかりの土地を童話の筋書きを念頭に辿るもの。
3. ウォーキング型街道観光
近年健康志向で専ら歩くことを目的とし、毎週末などに歩きやすい数キロの道を歩く人が増えてきた。とくに駅等を起終点として半日コースを歩く人が多い。これを発展させて観光スポットを歩いて訪れるツアーとしたものが人気を呼んでいる。
(例)「駅から」ウォーキング、「元気観光」ウォーキング等。
4. 「街道」そのものを観光対象とするもの。街道そのもの。例えば道や橋の美しさを味わったり「道の駅」等街道の、施設を訪れるもの。
(例)「しまなみ街道歩き」～本四架橋上を歩き、風光のほか道や橋の規模やその美しさにふれる。

NEW SPOT

in japan 41

震災風化

東日本大震災から3年過ぎ行くも復興の道のりは遠く、被災施設など惨事を思い起こす「震災遺構」を日々目の当たりにする地元民の苦悩は筆舌に尽くしがたい。一方、復興のため遺構が相次ぎ消えて震災の意識、記憶が薄れる「風化」も否定できない。被災の恐怖を物語る防災対策庁舎(南三陸町)、市街に居座る大型漁船(気仙沼市)、奇跡の一本松(陸前高田市)、たろう観光ホテル(宮古市)、各地の小学校舎など遺構は保存か撤去か対応が分かれた。公民館に乗り上げた観光バス(石巻市)は撤去され、民宿屋根上の観光船(大槌町)は復元へ寄付を募るが難航する。

風化を危惧し気仙沼市のリアス・アーク美術館は「大震災をいかに表現するか、地域の未来のためにどう活かしていくか」とのテーマで2013年4月から「東日本大震災の記録と津波の災害史」を

「ワスプにあこがれたアル・カポネ」
J N協会理事 北村 嵩（松陰大学教授）

禁酒法が施行された時代（1920～33年）にシカゴを舞台に一世を風靡した暗黒街の顔役・アル・カポネは、イタリーのナポリからの移民の子として、1899年にニューヨークのブルックリンで生まれた。禁酒法が発効され、「ムーンシャイン」と呼ばれた密造酒が「スピーキージー」と言われたもぐり酒場で売られていた時代は、密造、密売、密輸にギャング団が暗躍しており、シカゴを根城にして縄張りを全国的に拡大して、密造、密売で莫大な利益をあげて頂点に立ったのがアル・カポネである。対立するギャング団との抗争にはマシンガンまで使われ、「聖バレンタインデーの虐殺」のような流血事件は日常茶飯事であった。アル・カポネは歴史上もっとも有名なギャングとして、「犯罪王リコ」を始め「暗黒街の顔役」「スカーフェイス」などの映画や「アンタタッチャブル」などのＴＶドラマシリーズのモデルとなり、その残酷、非情さはよく知られているが、意外な側面も持っていた。

少年時代は成績も良く、家族思いの少年であったが、担当教師と喧嘩してから学校をサボるようになり、チンピラとしてギャング団の参加するようになったが、稼ぎの一部を母親に渡す心の優しさも持っていた。19歳のとき、結婚し、息子ソニーが生まれると、一時ギャングを辞めて、ボルティモアの建設会社へ簿記係として就職し、背広にネクタイという服装でまじめに勤めていた。1920年に父ガブリエーレが死亡した後、ギャング時代の知り合い、ジョニー・トーリオに呼ばれてシカゴに移り、本格的にギャングの世界で頭角を現した。政治家や警察官と癒着してライバルを倒し、勢力を拡大して押し上がってきた。大物になってもシチリア出身でない為、マフィアの本流に成れなかったアルは、又、奇妙なところに拘りを持っていた。

この当時は非ワスプのホワイト・エスニック（カソリックやユダヤ系）が台頭して来ていたが、まだまだワスプ（WASPアングロサクソン系白人プロテスタント）の勢力が圧倒的で、イタリア系移民は偏見にさらされ、ワスプに憧れ、真似をし、必死で白人の仲間入りしようとする風潮があった。アル・カポネもイタリア系の出自を気にして、自らをワスプ風にアル（アンソニー）・ブラウンと名乗り、呼ばせていた。又、息子のソニー（アンソニー）をエール大学に入れ、ワスプのエリート教育を受けさせて1940年代にはナッシュビル、テネシーの社交界の女性と結婚させた。アル・カポネはエリオット・ネス率いる連邦検察局（FBI）に証拠の残らない殺人容疑ではなく、書類の残る脱税で逮捕され禁固11年の刑を受け、サンフランシスコ湾に浮かぶ島アルカトラズ島の刑務所に収監されていた。当時のアルは刑を終えて隠遁していたが、息子の結婚式には出席し、久しぶりに公の前に姿を現したのである。

【会員募集】
都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会
員を募集しています。皆様のご支援で観光振興を！
個人会員（1口5千円、複数口歓迎！）、団体会員（1口5万円）
東京都渋谷区代々木1－5 8－1 3 小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会（TEL03-5304-9500）

美女ありき
小田急電鉄（株）特別社友 利光 國夫

世の中にはいろいろな美女コンテストがあるが、その中でも「ミス・ユニヴァース」というのが一番格上らしい。それよりかなり格下だが一応国際的コンテストである「ミス・インターナショナル」が、主に日本で開催されることもあって日本人には馴染み深いイベントである。そこに目をつけてバブル全盛期に小田急ではカメラメーカーと共催で「ミス・インターナショナル大撮影会」なるものを経営する遊園地で何度か開催した。

私は何度か事業部長として関わったので、周囲から「美女たちを間近に見られて好いですねえ」と羨ましがられたが、各国から選ばれたミスたちの表と裏の顔の違いにはいささか幻滅した。役得というべきかミスたちの控室を覗いて見ると、煙草の煙でもうもうたる中、平気で下着のまま何かむしゃむしゃ食っている者、下着もつけず裸のまま煙草をくわえている者、淑やかにカメラの前でポーズを取っている姿とは雲泥の差である。まあ男女を問わず誰でも裏表があるのは当然だが、数十人の平均身長180センチを超えるミスたちが繰り広げる裏の姿は壮観ではあるが、色気もなにもあったものではなかった。

話は飛ぶが十数年前パリに出張したとき、ココ・シャネルが晩年を過ごしたリッツ・カールトン・ホテルの部屋がそのまま保存されているのを観る機会があった。一般には公開されていないのだが、シャネル社が特に配慮してくれたのである。部屋に案内されてしばらくすると、解説係の女性が来たがこれが素晴らしい美女だった。淡い金髪で透き通るような青い瞳、背は私より少し低めで生けるフランス人形といった感じ、うっすらとしたピンク色の唇から流れ出る声も誠に愛らしかった。

後で妻に彼女の話をする「なんで写真を撮らなかったの」と言われたが、写真よりも思い出の中に生き続けるのが本当の美女に相応しいのではないかと私は思っている。

中国人訪日数に回復傾向はあるが・・

尖閣問題などで激減していた中国人の訪日客数に、回復傾向がみられる。10月は前年比74.1%増の12.14万人（1～9月では99万4900人と前年比20.5%減）で、年末にかけて一段と増えることが予想されている。

ただ、宿泊施設などでは「中国の人は、バイキング料理をどっさり持ち帰るなど、マナーが良くない」という声も聞かれ、痛し痒しといった感もあるようだ。

会員の投稿を歓迎～情報紙の充実を目指して～

観光情報誌2014年01月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します。400字から500字程度で、皆様のご意見、ご感想を、どしどしお寄せ下さい。詳細は、事務局にお問い合わせください。
発行は2014年1月25日、投稿締め切りは、1月15日です。

大震災前の水準復活が見えてきた東北！
あの手この手の努力が実りつつあるよう

東北地方を襲った3・11大震災・津波で、この地域への入り込み客（観光客含む）は激減していた。あれから3年近く、地域的なバラツキはあるものの震災前の水準に戻り、さらに上回る傾向が見えつつあるようだ。

観光庁の最新の調べによると、今年6月の入り込み客（ビジネス関係も含む）は、震災前の2010年6月に比べ、宮城県12.2%、岩手6.6%、青森1.6%と復活している。ただ、秋田と山形は依然大幅なマイナスだし、原発事故の影響が残る福島県もマイナス2.1%だ。

大津波の影響が甚大だった三陸海岸がある宮城、岩手両県の頑張りが目立つが、これは観光客というより復旧作業に携わる人たち、ボランティアの来県によるところが大きい、と観光庁は分析している。

とはいえ、JN東日本の「三陸に行こう」キャンペーン、2013年秋からスタートした三陸海岸を走るレストラン列車、被災各地に地元の人たちが造った「さんさん商店街」のような仮設商店街などが、この地を訪れる人たちを増やしていることも、疑いの



仮設商店街の一つ

ないところ。自治体、交通機関、被災者の三位一体の努力が実りつつある、と言ってよいだろう。また、NHKの朝の連ドラ「あまちゃん」、日曜の大河ドラマ、民放のさまざまなドラマ、報道特集なども、全国の視聴者の目を東北地方に向けたことも大きな効果を挙げたといえよう。

C O L U M N

捕虜の気持ち

今年1月アルジェリアで発生した衝撃的な日本人技術者誘拐、殺害事件の生々しい記憶の直後に、アラブで軍隊に捕まった体験を話してほしいという奇特な講演依頼をいただいた。以前イスラエルを訪れた時、ガイドからあなたには幸運が憑いていると妙な持ちあげられ方をした。アラブで軍隊やテロリストに捕まったら普通半死半生のリンチに遭い、生きた心地がしない筈ですと。

1967年のことだった。第三次中東戦争はイスラエルの電撃的な勝利のうちに終わり、敗れたアラブ諸国には戦禍が残り、国中に暗雲が漂っていた。そのアラブ国家のひとつ、ヨルダンでは軍の戒厳令が敷かれていた。その時私は戦渦の中にあつた首都アンマン市内の小高い丘で、あっという間に十数名のヨルダン軍兵士に包囲され、身体にライフル銃を突きつけられ、身柄を拘束されてしまった。一瞬何が起こったかわからず、しばらくして身体中がわなわなと震えてきた。無様にも急所を掴まれ軍靴で砂を蹴りかけられ、ホールドアップの姿勢のまま背後から兵士にどつかれつつ、通りがかった市民がこわごとと見守る中を滞在中のホテルまで連行される羽目になった。

こわもての兵隊さんに囲まれ尋問の末、漸く怪しい人物ではないと分かってもらえて何とか身柄は解放された。その前年ベトナム戦争中のサイゴンで米兵に銃を向けられたり、スエズ運河で警察署に留置されたのに続く、若気の至りの大チョンボだった。ガイドの言う通り、ヨルダン軍に怪しいテロリストと疑われでもされたら、果たしていまこの世にいたことが出来ただろうか。

昨年捕われて45年の節目を迎え、改めて拘束現場を再検証するためひとり現地を訪れた。あれから半世紀近い時が経過し、当時交戦国だったイスラエルとヨルダン国境も出入国に問題はなく、シリアからの難民を除き臨戦ムードは感じられなかった。捕われの現場は、いまや住宅地と化し‘This is the spot!’と叫ぶべき場所は、残念ながら確認できなかった。当時の背筋が凍った臨場感だけが甦ってきた。得難い体験だったが、もうこんな生きた心地がしない恐怖はまっぴら御免だ！

（近藤節夫）

観光資源豊かな東北に目を向けよう！

もともと東北地方には豊かな観光資源がある。世界遺産の白神山地、中尊寺金色堂、松島、磐梯山、奥入瀬の溪流、八甲田山等々、まだまだある。

これから雪に覆われるこの地だが、スキー場も多いし、三陸海岸では「こたつ列車」も走る。芭蕉が辿った「奥の細道」が、文化庁によって名勝地に指定された。ウオーキング観光に期待が寄せられる。

JR東日本は、来年も東北地方への「ディステーション」キャンペーンを続ける予定という。被災地への復旧支援ボランティアが減ってきている今、観光が間接的にでも復興支援になることを認識して、東北へ行こうではないか。（加納）

★ 東北に嬉しい話題二つ

楽天優勝パレードに21万人超の観衆

プロ野球日本一となった「楽天イーグルス」が24日、本拠地の仙台で青空の下、優勝パレード。村井・宮城県知事を先頭に、星野監督はじめ連勝記録でギネスブックに載る田中将大投手ら選手一行に、予想を上回る21万4000人の観衆が、拍手を送った。



ケネディ大使が東北地方を訪問

日本に着任したばかりの米ケネディ駐日大使が、日本最初の訪問地に東北地方を選んだ。まず25日には宮城県を訪れ村井県知事と会談、石巻市の高台から大津波の爪痕を見た後、市内の小学校でバースデープレゼントを贈られた（27日が誕生日）。また南三陸では、仮設住宅に住む被災者と懇談、励ましの言葉を述べた。

ケネディ大使は「アメリカは、被災地支援を続ける」と語った。26日は岩手県の太平洋沿岸部を訪れた。